

PRESS RELEASE

和歌山県 紀の川市役所が「i-FILTER」と「m-FILTER」の “ホワイト運用”を導入

～全部署約 650 人が危険な Web サイトにアクセスせず、危険なメールを受信しない安全な業務環境を実現～

情報セキュリティメーカーのデジタルアーツ株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:道具 登志夫、以下 デジタルアーツ、証券コード 2326)は、和歌山県紀の川市役所(和歌山県紀の川市、市長:岸本 健)が Web セキュリティ製品「i-FILTER」Ver.10 とメールセキュリティ製品「m-FILTER」Ver.5 を導入した事例を、8 月 10 日に公開したことを発表します。

Web サイトの閲覧ログを確認するため「i-FILTER」、自治体情報システムの「三層分離」対策で「m-FILTER」を導入

和歌山県紀の川市は、和歌山県北部に位置する全国有数の果物産地で、特に桃やはっさくが有名です。温暖な気候と美しい自然環境にも恵まれ、パラグライダーなどのスカイスポーツも盛んです。人口約 6 万人の市民生活を支える紀の川市役所は、テレワークに加え、RPA(ソフトウェアロボットによる業務自動化)や AI-OCR(AI を活用した光学文字認識)を積極的に取り入れるなど IT 活用が進んでいます。ISO27001 (ISMS、情報セキュリティマネジメントシステム)も県内で初めて取得するなど、セキュリティ対策にも力を入れています。

「i-FILTER」の導入は、ISMS の分析による改善の一環でした。紀の川市では、これまでインシデントは発生していませんが、個人の Web サイト閲覧状況を確認できなかったため、もし何か起きた場合に個人の閲覧ログを調べられるようにと考え、同市に合わせたきめ細やかなフィルタリングが可能で、閲覧ログを確認できる「i-FILTER」を 2022 年に導入しました。

また、紀の川市は 2016 年、自治体の情報システムの強靱化として「マイナンバー利用事務系」、「LIGWAN 接続系」、「インターネット接続系」をそれぞれ分ける「三層分離」を実施しました。その際、「インターネット接続系」に届いたメールを無害化した上で、普段の業務で利用する「LIGWAN 接続系」にメールリダイレクト(二重配送)するため、「m-FILTER」を導入しました。転送しない場合はそれぞれの接続系にログインしてメールを確認する必要があり、それでは仕事のスピードが落ちてしまうことを懸念したためです。



紀の川市役所

「i-FILTER」と「m-FILTER」の“ホワイト運用”で、安全な Web サイトのみアクセス・安全なメールのみ受信

「i-FILTER」は、国内で検索可能な URL をカテゴリ化して DB(データベース)に登録し、DB に登録されていない未知の URL へのアクセスをブロックする「ホワイト運用」を実現している Web セキュリティ製品です。紀の川市では、この「ホワイト運用」を全部署で採用し、安全を担保する運用を選択しました。業務上閲覧させたくない Web サイトのみブロックし、必要な Web サイトは閲覧できるようにするため、「i-FILTER」のフィルタリングカテゴリを活用して部署ごとに閲覧できるよう管理しています。

例えば、ふるさと納税を担当する部署ではショッピングサイトを見られるように設定し、人権に関する部署では掲示板などへのアクセスも許可しています。CAD(コンピュータ支援設計)や決済のみを行う端末では、指定した Web サイト以外には接続できないようにも設定しています。また、職員がどんな Web サイトを閲覧しているのかという細かいログも取得し、万が一インシデントが起きたときのリスクマネジメントも行っています。

「m-FILTER」においても、「ドメイン」と「IP アドレス」の組み合わせを DB 化することで安全なメールのみ受信する「ホワイト運用」を実現しています。受信したメールの送信元や本文、添付ファイルの拡張子が偽装されていないかを判定し、危険と判断したメールは隔離を行います。クライアント端末には隔離通知のみされるため、端末は安全なメールだけを受信します。

本文や添付ファイルも対象とし、高速かつ詳細にメール検索が可能な、送受信メールの全文保存(メールアーカイブ)も利用しており、紀の川市では全期間を保存しています。また、上長のメールアドレスを自動的に BCC に追加する設定も利用しています。

紀の川市は、これまでもシステムの運用などのさまざまな改善を行ってきましたが、今後も ISMS を中心としてリスクを分析し、改善すべきところは改善していく計画です。RPA や AI-OCR の活用などが進む紀の川市では、コミュニケーション手段なども含めて DX に取り組む機運が高まっています。22 年度に DX 計画を作成して、23 年度に実施していく予定です。こうした DX による業務効率化を進めることで、市民サービス向上につなげていくといえます。

■和歌山県 紀の川市役所の導入事例全文はこちら ▶ <https://www.daj.jp/bs/case/case93/>

■「i-FILTER」とは

「i-FILTER」は、Web セキュリティ製品です。有害情報や業務に関係のない Web サイトの閲覧を防ぐフィルタリングに加え、外部からの攻撃、内部からの情報漏洩も防ぎます。国内で検索可能な URL を網羅したデータベースにより、危険な Web サイトや未知の脅威へのアクセスをブロックし、デジタルアーツが安全と判定した Web サイトのみアクセスできる環境を実現しています。

■「m-FILTER」とは

「m-FILTER」は、メールセキュリティ製品です。あらゆるメール攻撃を防ぐ外部攻撃対策に加え、メールフィルタリングによる誤送信対策やメールアーカイブによる内部統制の強化を実現します。メール送信元の「IP アドレス」と「ドメイン」の組み合わせを収集したデータベースにより、安全なメールのみを受信することができます。

デジタルアーツ株式会社 概要

Web、メール、ファイルなどのセキュリティソフトウェアの提供を核に事業展開する情報セキュリティメーカーです。1995 年の創業以来、「より便利な、より快適な、より安全なインターネットライフに貢献していく」を企業理念とし、有害情報の閲覧を制限する Web フィルタリングソフトを開発、以来企業・公共・家庭向けに情報セキュリティ製品を提供しております。

東京都千代田区大手町 1-5-1 大手町ファーストスクエア ウェストタワー14F
URL: <https://www.daj.jp/>

＜本リリースに関するお問い合わせ＞

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う在宅勤務実施中のため、お問い合わせ先は下記とさせていただきます
デジタルアーツ株式会社 広報担当 石井 (TEL : 080-8750-0425 / E-mail : press@daj.co.jp)

- ※ デジタルアーツ、DIGITAL ARTS、i-FILTER、i-FILTER Anti-Virus & Sandbox、i-FILTER@Cloud Anti-Virus & Sandbox、info board、Active Rating System、D-SPA、Anti-Virus & Sandbox for D-SPA、NET FILTER、SP-Cache、White Web、ZBRAIN、クレデンシャルプロテクション、ホワイト運用、m-FILTER、m-FILTER MailFilter、m-FILTER Archive、m-FILTER Anti-Spam、m-FILTER Anti-Virus & Sandbox、m-FILTER@Cloud Anti-Virus & Sandbox、m-FILTER File Scan、Mail Detox、m-FILTER EdgeMTA、EdgeMTA、FinalCode、i-フィルター、DigitalArts@Cloud、Desk@Cloud、Desk、D アラートおよび D コンテンツその他の弊社・弊社製品関連の各種名称・ロゴ・アイコン・デザイン等はデジタルアーツ株式会社の登録商標または商標です。
- ※ その他、本書に記載されている各社の社名、製品名、サービス名およびロゴ等は、各社の登録商標または商標です。